

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年11月1日発行（毎月一回発行）第694号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

神の待ち伏せ 奥西まゆみ

エッセイ

第15回東北アジア・キリスト者文学会議

開かれる 長濱拓磨

本・批評と紹介

広岡浅子 著

人を恐れず天を仰いで 山口陽一

山口里子 著

イエスの譬え話1 桃井和馬

渡辺正男 著

祈り 久米あつみ

S.R.ヘインズ、L.B.ヘイル 著／船本弘毅 訳

はじめてのボンヘッファー 江藤直純

上田光正 著

日本の伝道を考える3

伝道する教会の形成 小泉 健

土井健司 編

自死と遺族とキリスト教 窪寺俊之

ジェームス・B.トールンス 著／有賀文彦、山田義明 訳

三位一体の神と礼拝共同体 原田浩司

梶山義次、富永國比古 著

『銀河鉄道の夜』と聖書 大島 力

八木哲郎 著

19世紀の聖人ハドソン・テラーと

その時代 菅家庄一郎

藤田 潔 著

アドラ・パッション 花田憲彦

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

書店案内



11 NOVEMBER
2015

「栄光の神学」から
「十字架の神学」へ



A・E・マクグラス
鈴木浩訳

● A5判・304頁・本体4,200円

ルターーの十字架の神学 マルティン・ルターーの神学的突破

宗教改革の最大の争点であった義認論をめぐって、ルターーが「十字架の神学」へと至った道筋を、中世末期の神学的背景に照らして検証。宗教改革思想の知的・霊的潮流を最新の研究をもとに分析する。

好評発売中!

G・S・サンシャイン 『はじめての宗教改革』

● 四六判・348頁・本体2,400円

J・カルヴァン 久米あつみ訳 『キリスト教綱要 (1536年版)』

● A5判・416頁・本体4,500円

J・カルヴァン 久米あつみ編訳 『カルヴァン論争文書集』

● A5判・400頁・本体3,800円

カルヴァンの宗教改革教会論 教理史研究

丸山忠孝

● A5判・528頁・本体4,800円

一六世紀の時代的・地域的狀況と原典資料を丹念に繙きながら、カルヴァンの教会論の深化と展開を読み解いた画期的な試み。ヨーロッパ世界を視野に入れた「宗教改革教会論」へと至る軌跡を辿る。



好評発売中!

田澤雄作 『メディアにむしばまれる子どもたち』

— 小児科医からのメッセージ —

笑顔のない・大人になれない子どもたちが増えているのはなぜ?! 大人には便利な電子メディアでも、子どもにとっては心身の成長発達を脅かしかねない前代未聞の問題です!

● 四六判・202頁・本体1,300円



キリスト教教育と私 中篇

塩野和夫

● 四六判・232頁・本体1,500円

同志社大学で教会や地域社会で、人びとの悲しみと対峙し、「いかに生きるべきか」を問い続ける日々。深い感動を伴って神の恵みに生かされる道に到達した同志社大学時代をイラストとともに回想する。





出合い・本・人

神の待ち伏せ——奥西まゆみ

私は二〇一一年九月に、セルビアのベオグラードで開催された国際ペン・セルビア大会に参加した。そこで一人の詩人・ベオグラード大学教授の山崎佳代子先生に出会った。私には別のペンネームもあったが「本名で行きなさい」と山崎先生からアドバイスを頂き、その旅を通して本名の奥西まゆみで詩人として再スタートする決心をした。山崎先生は「これで大丈夫ですから」と預言者のように仰っていたことが——今となつては誠に不思議なことだが——とても印象に残っている。私にとって詩作の再出発となつた大切な旅であった。山崎先生は十二月に私の勤務する梅花女子大学のクリスマススイミング2011「クリスマスマス礼拝」のためにはわざわざ帰国して、ご自分の詩集「みをはやみ」（書肆山田）から、詩を朗読してくださった。山崎先生から詩の命を吹き込んでもらったので退会していた日本詩人クラブにもう一度入会した。

翌年二〇一二年の春に、日本詩人クラブの関西部会が谷町九丁目で開催され、その部会で私は東京大学教授・日本詩人クラブ理事長の川中子義勝先生にお会いした。川中子先生は、十二月一日にアルカディア市ヶ谷で開催された日本キリスト教詩人会二〇周年の祝会に私を招待してくださった。この祝会では、東京大学総長の矢内原忠雄氏の許で聖書を学ばれた「ひろば語学院」理事長の丹羽篤人先生にお会いすることができた。そして十二月二二日

に、川中子先生は本学のクリスマススイミング2012「クリスマス礼拝」で奨励をしてくださり、ご自身の著作『ふゆごもり』（いのちのことは社）という絵本まで頂いた。梅花学園創立一三五年の記念すべき年となつた。

今年二〇一五年の八月に、私は丹羽先生から詩人藤井武（一八八八〜一九三〇）の『沙漠は番紅花の如く』（岩波書店、一九二四年）を頂いた。藤井武の生涯は四十三歳、妻喬子は二十九歳ともっと短い。喬子は「天国に、善い場所を備えて、待つて居ます」という言葉を残して藤井よりも八年も先に召天している。詩人藤井武は、主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさみ伝道した人である。彼がエレミヤを語るとき、彼自身がエレミヤであった。妻を天に送つた二年後、藤井はこの書籍に來世のことを書いた。「神は愛なり、妻の人生はこの世では未完であったが天においては完結しているのだ」とあかしされている。

今、振り返ってみると私は聖書と詩によって多くの出合いが用意されたが、本・人との出合いは私にとっておおいなるご恩恵「神の待ち伏せ」だったことを知る。

（おくにし・まゆみ〓梅花女子大学宗教部アシスタントマネージャー・山下バプテスト教会員・日本キリスト教詩人会・日本文藝家協会会員）

第十五回東北アジア・キリスト者文学会議開かれる

長濱拓磨

はじめに

戦後七十年、日韓基本条約締結から五十年を迎える今年、第十五回東北アジア・キリスト者会議が、八月六日（木）～九日（日）、北海道・旭川文学資料館において開催された。

この会議は、一九八七年から一年おきに、日本と韓国を交互に会場にして開かれてきた。第一回会議には台湾の代表が参加したこともあつて、会議名に「東北アジア」が冠せられたが、第二回からは、諸般の事情で日韓の参加者に限られることになった。その中心的役割を担ったのが、劇作家の故・高堂要氏と詩人の故・金元植氏である。次回で三十周年を迎える。

会議では、日韓のキリスト教文学に関わる小説、詩、戯曲、児童文学などを取り上げ、日韓の発題者が発表をし、そのあとで通訳を交えながら議論するという形で、白熱の討議が交わされてきた。今回は特に開催地が旭川市ということで、三浦綾子記念文学館特別研究員の森下辰衛氏に講演とガイドを務めていただいた。また、キリスト教詩人会の東延江氏をはじめとする地元の方々の心尽くしもあつて、まさにいたれりつくせりの会議であつた。

今回、韓国からの参加者は二十名、日本からは二十三名。地



（左端） 主題講演をする森下辰衛氏、中央筆者

ユーマニズムの姿を捉えた。

韓国の詩は、朴斗鎮の「青山道」「太陽」「カルバリの歌Ⅱ」の三篇。日本からは詩人の奥西まゆみ氏、韓国からは詩人の李福雄氏が発題した。奥西氏は朴斗鎮を自然・人間・神を表現した詩人として評価し、李氏は詩の中にキリスト教思想と自然や生命の発見を見た。

日本の詩は、高野喜久雄の「天 あくまでも」「独楽」「蠟燭」の三篇。韓国からは詩人で淑明女子大教授の金應教氏、日本か

元の旭川ばかりではなく道内各所からも参加者があつた。オーピングの八月六日（木）にはレセプションと第九回アジア・キリスト教文学賞授賞式が行われた。詩人で長年日韓のキリスト教文学交流に貢献された森田進牧師（堺市・土師教会）が受賞した。レセプションではカトリック旭川五条教会をはじめとする三教会合同の聖歌隊による合唱や昨年九月三十日に召天された三浦光世兄を覚えての黙禱も執り行われた。三浦光世氏は本会議に出席することを楽しみにされていたということだが、惜しくもその機会は失われてしまった。

八月七日（金）

森下辰衛氏の「氷点」は聖書をどのように表現したのか」という主題講演から始まった。「氷点」は原罪を描いた作品で、その罪の問題は主人公の陽子に集約されるとよく言われる。だが、氏は陽子だけではなく辻口家の一人一人に罪の問題があり、それこそ神から離れた人間の姿そのものだという。さらに、最後の場面で陽子が三日三晩昏睡する姿には、神の時間があり、ラザロを復活させたイエスの物語と類似したものがあつたという。「氷点」の読み方を一新させる深い解説に参加者は感銘を受けた。

らは詩人の坂井信夫氏。金氏は高野喜久雄の詩から「巨大な絶対者の前の単独者」を読み取り、坂井氏はコンパス、独楽、蠟燭の三つに共通する身を犠牲にする痛みや苦悩を読み解いた。

八月八日（土）

日本の小説は、三浦綾子の『銃口』が取り上げられた。韓国からは、文芸評論家の文永俔氏、日本からは私が発表した。文氏は、『銃口』の登場人物を「神の国の民」「愛の種を蒔く人々」「対立的な人間型」の三つに分類し分析したのち、主人公の実家を質屋に設定した意味を「良きサマリヤ人」として解説した。私は『銃口』論——「カミ」から「神」への道程」と題し、天皇を「カミ」として信じていた主人公の北森竜太が多くの人（ほとんどが非キリスト者）の思想や行動を通してキリスト教の「神」への信仰に至る道程と見た。

会議終了後、午後からは三浦綾子記念文学館、『道ありき』文学碑などをめぐった。森下氏の懇切丁寧なガイドにより三浦綾子の世界を存分に堪能することが出来た。感謝申し上げます。

八月九日（日）

主日礼拝が合同で行われた。関泳珍牧師が「十字架にかけられた罪人」という題で説教をした。戦争・平和・罪の三つを中心に議論された会議の締めくくりにふさわしい礼拝となつた。

（ながはま・たくま 京都外国語大学准教授）

ドラマのヒロインの肉声を伝える
広岡浅子著

人を恐れず天を仰いで 復刊『一週一信』



山口陽一

NHKの朝ドラ「あさが来た」の主人公広岡浅子は、稀代の女性実業家であり、還暦を過ぎてからキリスト教信仰に生きた女傑である。一八四九年、京都油小路出水の三井家に生まれた浅子は、二歳で大阪の両替商、鹿島屋広岡家の許嫁となり、幕末には各藩などに九〇万両（約四五〇〇億円）を貸付けていたという同家に嫁ぐ。女に学問はいらないと読書を禁じられる時代に独学で簿記や算術を学び、明治維新の動乱と困難の中で鹿島屋の事業を背負って立ち、鹿島銀行、炭鉱経営、大同生命設立にその手腕を発揮した。護身用の拳銃を懐に忍ばせて潤野炭鉱に泊まり込んだという武勇伝の持ち主は、成瀬仁蔵と出会い、一九〇一年の日本女子大学設立に関わることになる。夫の死後は経営を譲り、還暦のときの大病をきっかけに大阪教会で宮川経輝牧師から洗礼を受け、その後はYWCAなどで社会貢献に奔走、一九一九年に召天した。

広岡浅子のキリスト教信仰について知りたいと思ひ、探し当てたのが『一週一信』だった。これは一九一七年一月二五日から一二月二〇日まで、「九転十起生」のペンネームで『基督教

こう言われては痛にさわる教会人もいただろう。女性であることを伏せて歯に衣着せぬ言葉を浅子は信に満ちて言い切る。「それで我らは力を尽くして使徒パウロが欧亜の二大陸に伝道したような、攻勢的な伝道をやる必要がある。これが即ちキリスト教の軍国主義に対する挑戦の根本的態度である。」

筆を置いて浅子は「すっきりした」だろう。これが広岡浅子である。そして、彼女の入信ははつきりしている。宮川牧師の導きは本格的で、毎週二回ずつ二五回ばかり宗教哲学を講じてから聖書の講義を始めている。しかし信仰に至れない浅子は、山室軍平に薦められ『聖潔の栞』と聖書を携えて軽井沢の別荘にこもった。そこで回心が起こる。

「我は超然として絶対の神に触れるを覚え、思わず涙滂沱として下り、止むる処を知らぬという有様になりました。六十余年の今日まで親に別れても夫に死なれても、かつて涙一滴落とさず、われながら剛情にあきれざるを得ない私が初めて感涙を

世界』に連載した評論であり、「七十になる迄——緒言に代えて」と題した自叙伝が付されている。浅子六九歳、洗礼から六年後、召天前年の著書である。

国立国会図書館の近代デジタルライブラリーからダウンロードして読んだとき、最も印象に残ったのは次の一文だった。第一次世界大戦後の世界について彼女は言う。

「私どもは今やこの誤れる時代遅れの軍国主義に対して戦いを挑むべき時ではあるまいか。（中略）我らクリスチャンは大々の計画を立てて、国民性の改造、あるいは国民思想指導のために、キリスト教大学を建つべきではあるまいか。」

その可否は金の問題ではなく、根本的画策のありや否やによって決定せられるとし、当時のキリスト教界に苦言を呈す。

「今日のような小規模のキリスト教事業は、もはや天の喜び給うところではあるまい。箱庭的伝道方法、即ちこや彼処に石が足りない松が足りないといつては、石や松をそこや彼処に植えたりするような行り口は一向に感服しない、のみならず全然世界の大局とは没交渉な方寸である。」

も催さざるを得なかったのは、実に不思議で、宇宙には神在するという感は、この時から取り去ることができないものとなりました。「生まれ変わった浅子はクリスチャンとしての後半生を生き、『一週一信』を世に送る。

「キリストに救われてここに十年、単にわが身の安心立命をもって足れりとせず、国家、社会の罪悪をその身に担うてこれと闘うにあらざれば、真に十字架を負うてキリストに従う者にあらざるを悟り、人を恐れず、天の啓示を仰いで、忌憚なき叫びを挙げたものであります」

関東学院大学の影山礼子教授による、浅子の生涯と社会貢献、交友関係や当時の女子教育についての解説と、『一週一信』の解説が堅実で大変参考になる。広岡浅子の「人を恐れず、天の啓示を仰いだ」信仰が、百年ぶりに蘇ったことを喜びたい。

（やまゆち・よういち 東京基督教大学教授）
（B6変形判・一六〇頁・本体一七〇〇円＋税・新教出版社）

井上洋治著作選集2《全5巻》

余白の旅 思索のあと

山根道公 編・解説
小野寺功 解説



第4回配本

生きとし生けるものを生かす「余白」から吹きぬけてくる風を、聖霊と捉えるまでの思索を明かす。新たに解題・解説と遠藤周作氏のエッセイや著者の遠藤氏宛ての書簡を収録。
A5判 上製・242頁・2700円

— シリーズ案内 各巻2,700円 —

- 1 日本とイエスの顔《好評発売中》
- 3 キリストを運んだ男—パウロの生涯《2015年11月刊行》
- 4 わが師イエスの生涯《好評発売中》
- 5 遺稿集「南無アッパ」の祈り《好評発売中》

笑いの中に真理を伝える
キリスト教エッセイ集、第2弾!

一笑懸命 山北宣久



楽しく気軽に読めて、日々の生活の中にある福音への気づきを与えるエッセイ集。

四六判 並製・136頁・1,296円

前著 天笑人語
山北宣久 1,296円
好評発売中



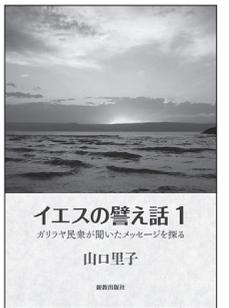
日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoubp@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-uccj.jp

弱者の武器としての譬え話
山口里子著

イエスの譬え話1 ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る



桃井和馬

「イエスの譬え話1」という平易なタイトルから、素材で「予定調和」的内容を想像する人が多いのではないだろうか。しかしフェミニストの聖書学者として知られる著者が、「もう先送りはおかない」との決意で書き上げた著作だから、本質を射貫くように迫ってくる内容は、想像を超えてラディカルで、濃いたとえば「ぶどう園と農夫（マルコ12章1〜9節）」、「ぶどう園の労働者（マタイ20章1〜16節）」、「放蕩息子（ルカ15章11〜32節）」など共観福音書に記された八つの譬え話から、イエス本人の真意に迫る。

大学の授業や公開講座が基だから、丁寧で緻密な学術的解釈が繰り返される。また本文と同じくらい量の注や参照で、論拠となるエビデンスを示すと共に、追記された解説が読者の理解を促している。

一章ごとに紹介されるのはひとつの譬え話で、章頭には必ずテキストとなる聖書箇所が記されているのだが、それも著者本人がギリシヤ語から直接翻訳したもので、イエスが本当に話した譬え話か、福音書記者が付け加えた箇所なのかが、平行記事、

Q資料、トマス福音書、学術論文などを参考にした上で、フォントを変え、分かりやすく区別された上で紹介される。

その上で本書が試みるのは、イエスの譬え話に出てくる「主人」「農園主」「父」などを、伝統的にキリスト教界が「神」と解釈してきたことへの異論だ。

だが、譬えで紹介される「主人」を、神ではなく、強欲な大地所有者としてイエスが語っていたなら、聖書の譬え話は、まったく異なる意味を持つ話になるのだ。

イエスが生きた時代は、現代と違い、中間層が存在しない社会だった。ごく限られた者だけが富み、それ以外は、日々の糧さえ確保が困難な者たちだった。そしてイエスの話を聞きに集まった層は、圧倒的多数が貧しい者たちだった。社会的な弱者としての聴衆。改めてそうした前提を確認すると、「主人＝神」としない著者の解釈が、俄然、輝きを放つようになる。聴衆がイエスの話に心踊らせた理由が、一気に理解できるようになるのだ。

フェミニスト神学を中心に研究を続けた著者は、誤解される

ことも多いはずだ。しかし氏が追い求めるのは決して偏狭なフェミニズムではなく、社会の片隅に追いやられた弱者に寄り添うしなやかな視線、弱者に軸を置く神学であることがわかる。

同時に、イエスの譬え話は二千年前だけに通用した過去の話ではなく、現代の諸問題（原発、貧困、LGBTなど）を理解する上でも大切な、生きた視点だと理解できるようになるのだ。

「あとがき」で紹介される中南米の女性たちの体験談が興味深い。圧制下当時、教会で活動していた人物が、警察車両に強引に押し込まれ、連れ去られた時の話だ。独裁と強権が社会を覆った一九六〇年代〜九〇年代の中南米では、こうしたことが日常的に発生していた。当然捜査などは行われず、「行方不明」で処理されるが、多くは秘密裏に殺害されたのだ。この時は教会の庭の片隅で見ていた少女が、すぐに神父に通報。神父は裏ルートを使い、仲間の救出に成功した。そして事件後、神父は教会員にこう伝えたという。「ある人がいのちの危険に晒され

たけれども、天使によって助けられました」と。これが後に、著者がイエスの譬え話を読み解くヒントになった。いつの時代も、譬え話は弱者の武器であったのだ。

「巨大な富と権力を握る「主人」を神と決めて読み、絶大な力を持つ「主人」に対して忠実に従うことを教えられたキリスト教界では、「主人」を頂点に持つ父権制社会構造すなわちエリート男性中心タテ社会の構造に対して、根本的な批判の目を向けることがありませんでした。（中略）それを支えているメンタリテイに対して、イエスの伝道活動と譬え話は根本的な問いを突きつけているのではないのでしょうか？」（八九〜九〇頁）本書が提示する問いは大きい。書名から本書がシリーズ一冊目であることがわかる。今から続編が楽しみだ。

（A5判・一九八頁・本体二〇〇〇円＋税・新教出版社）
（ももい・かずま＝写真家）



弁証学

〈改革派教義学〉別巻

市川康則
Yasunori Ichikawa



キリスト教はその本性上「弁明」の宗教である。告知《これが真理である》と批判《それは真理でない》は一体であり、後者を担うが弁証学である。本書はこのことの現代的模索の試みである。

A5判・上製・函入
定価【本体 4,800 + 税】円
ISBN978-4-86325-090-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

嘆きを掌に載せて 神への呼びかけの書

渡辺正男著

祈り

「こころを高くあげよう」



久米あつみ

新たないのちの始まりなのです」(「夕映えの中で」)など。

敬愛する渡辺牧師の祈りの書が出た。「神さま」と著者は呼びかける。呼びかけが大事だから、祈りが自分の独り言になってはならないから、と。その祈りは神との対話であり呼びかけであり、時に嘆き、時に反省がなされるが、終わりは必ず神への賛美である。

「クリスマス 御心の地にもなるように」と題された祈りでは、福島原発やシリアの内戦など、心重いニュースが続くこの世界に、「希望はあるのでしょうか」と著者は問いかける。

でも神様は「救い主イエス・キリストをお与えくださいました／主イエスは、今もとりなし祈っていてくださいます」と続ける著者は「わたしたちは、見放されていないのですね」と念を押す。

この「〜ですね」という念押しはいくつかの祈りの中で使われている。「パウロは……御言葉を、願うように語ることができませんでした／でも、その時のパウロも、聖霊の御手の中にあったのですね」(「ペンテコステ 聖霊に押し出される」)「夕映えの消えていく／人生の終わりにも、思いが及びます／それは

二〇一四年四月から二〇一五年三月までの一年間、私たちの教会は無牧になった。その間たくさんの方々が応援にきてくださったが、毎月説教された渡辺牧師のメッセージは、時に混迷や寂しさの中に沈もうとする私たちの頭を上げさせ、また裡に籠ろうとする心根を外の世界へと広げてくださるものだった。その説教の中で、時々先生が使われる「私たちは〜なのです」という言葉つかいには、なんとも言えぬ親しみを感じさせられた。それは私たちの、また誰かの生き方を確認し、神にそうした生き方を見ていただくための「しるし」なのだ。

毎月の『信徒の友』の巻頭を飾る先生の「祈り」は、主無き会堂の留守番役を務める兄弟によって紹介され、私たちの心を神に向けてくれた。それらの祈りの中に、私たちの教会のことを祈る祈りもあった。「教会に生きる喜び」である。それは無牧の教会を憐れむとか、励ますものではなく、信徒一人一人の働きを地域への福音の証しと捉え、「裏方の人こそが、あなた

の恵みを深く味わうのですね」と言い、「どうぞ小さな働きを担い合う教会でありますように」と結ぶ。

憐れみや励ましでなく、と今書いた。著者は牧者でありながら上からの目線ではなく、一人の弱い、他人のことが気になる人間として神に語りかけている。

たとえば「新緑の中、精いっぱい生きたい」の祈りで、「神さま／何かにつけて、友人のことが気になります／わたしより人生を上手に生きているように思えて／ねたましくさえ感じます」と語りだした祈り手は、復活の主がライバルを気にするペトロに「あなたは、わたしに従いなさい」と、叱るようにしかり温かく言われたことを想いだし、「復活の主よ／どうぞわたしをも叱って、お導きください」と乞い願う。

また「病を得て」では、「天の父なる神さま／体調を崩して入院しています／急に自信がなくなり、弱気になっています／

先も見通せず、不安が募ります／落ち込みます」と呻きながら「神さま／この嘆きを掌に載せて／そっと御前に差し出します」と続ける。なんと美しい表現か。そして「イースター 重いこころを抱えつつも」の祈り。著者は被災した気仙沼の地であって「こころを高く挙げる事ができません」。エマオ途上の二人が想起され、「主よ、わたしたちの歩みにも、肩を並べてくださるのでしょうか」と問いかけが続く。そして被災地で山に木を植える人の姿を目にしたとき祈り手の口から「ありがとうございます」の言葉と、「こころを少し高く挙げて、歩みをはじめます」との祈りが発せられる。高くなくても、心を少し挙げようと、著者は私たちにも呼びかけるのである。

(くめ・あつみ＝仏文学者)
(四六判・一二頁・本体一〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

キリスト新聞社の本

Kirisuto Shinbun, Co., Ltd.

大切なあなたに贈る
珠玉の詩集!



写真付き
保存版!

八木重吉の原点である諸作品と風景写真を満載した詩集 八木重吉詩集 祈りのみち

八木重吉◎作
森重ツル子◎編

結核のため二十九歳でこの世を去った詩人八木重吉が書き残した二千余りの詩。重吉と彼の詩を愛した妻とみ子は、これらの作品を世に出すべく、大切に保管していた。二人の子とみ、桃子と陽二を重吉と同じ病で相次いで失うことになるが、とみ子は歌人吉野秀雄と再婚し、彼の子とみたちとともに重吉の詩を世に送り出した。

■A5判 84頁 1200円

キリスト新聞社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL. 03-5579-2432
FAX. 03-5579-2433 (価格税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

新しい視点の入門書
S・R・ヘインズ/L・B・ヘイル著
船本弘毅訳

はじめてのボンヘッファー



江藤直純

すでに高い評価を受けているこの人物の「伝記+入門的研究書」がいくつもある中でこの新刊は必要かと問われれば、はっきりと「然り」と言いたい。ドイツ教会闘争の只中に生きたボンヘッファーを鋭く描き出した名著、森平太「服従と抵抗への道」を嚆矢に、邦語文献は枚挙にいとまがない。

しかし、この『はじめてのボンヘッファー』には共著者の明確な意図がある。これは「ボンヘッファーの生涯の意味」を「反ナチ抵抗運動、投獄、処刑」から振り返るやり方ではなく、「その初めから終わりに至るまで、いわばその生きたさまを跡付けるかたちで叙述する」試みである。第六章「遺産」の中で述べられているように一九六〇年代から今日までさまざまな文脈と角度から論じられ評価されてきたボンヘッファーの神学のもつ豊かさを提示したいとの意図があるだろう。それは、教会闘争を生きたボンヘッファーの価値を下げることはない。それを含めた彼の神学と生涯の全貌を捉えようとの一つの試みである。

家族の背景から最後の日々までの伝記の部分が全体の半分弱

これはたしかにそうだが、ボンヘッファーの神学の総体を貫くのが信仰義認を中心とするルター神学であることを著者は主張する。「高価な恵み」という概念は、ボンヘッファーの人間のためになされたキリストの贖いの苦難に対する深遠な認識と、マルティン・ルターの十字架の神学、二王国論、信仰義認などの神学の深い理解に基づいている。さらに付言すれば、高価な恵みの考えは、ボンヘッファーの平和主義、責任、信仰と服従の関係といった考え方と響き合っている。究極的には、ボンヘッファーの後期の著述に出てくる『キリスト教信仰のこの世性』という考えの前兆であった」という解釈を述べている。この章に本書の特徴があると言えよう。

第四章「代理と形成としての倫理学」においても「犠牲的奉仕としてのキリスト中心の自由が、ボンヘッファーの倫理の核心であり、それはルターの十字架の神学によって形成されたのである」とまで言っている。「委任」の意義も強調している。

神学会・「神学」76号
2014年12月26日発行
「神学」は半世紀以上も読み継がれた神学専門誌です！
主題「洗礼と伝道」
サクラメントとしての洗礼…芳賀 力
洗礼・堅信礼を巡る教会教育…朴 憲郁
洗礼礼典におけるエビケレース…小泉 健
自由研究
コリントの信徒への手紙一におけるパウロの聖書理解…焼山満里子
聖霊の位格性と働き…須田 拓
山田寅之助における信条と神学(一)
—「バプテスマ」の論議をめぐって…棚村重行
三位一体論の形成と母なる教会…関川泰寛
教育が教育であるために(2)…長山 道
From Fate to Faith: Leaving the Quagmire for Green Pastures
…Wayne A. Jansen
初期韓国教会の勸書制度と勸書人、
蘇堯翰長老…蘇 基天
(その他博士課程後期課程学生論文3本掲載)
A5判・252頁・定価2,800円+税

「伝道と神学」5号
2015年3月25日発行
「伝道と神学」は東神大と教会を結び
伝道実践と神学の雑誌です！
日本伝道協議会長野大会記録
教会形成の言葉が会衆に届く言葉である…大住雄一
会衆に届く言葉と教会形成の言葉…鷹沢 匠/本城仰太
キリスト教学校伝道協議会記録
良心の自由から道徳教育を考える…深谷松男
教職セミナー記録
洗礼と伝道をめぐって—三つの角度から—…神代真砂実
再生としての洗礼—洗礼を目的して伝道するために…須田 拓
「キリスト教の洗礼の起源」に関する一考察…中野 実
マルティン・ルーターにおける洗礼と伝道…長山 道
大きな救いの交響楽を取り戻そう！
—明治期「大リヴァイヴアル」の洗礼と
伝道の負の遺産を越えて…棚村重行
洗礼を巡る伝道と教育…朴 憲郁
(その他博士課程後期課程学生論文2本掲載)
A5判・198頁・定価1,500円+税
お買い求めは
全国キリスト教書店または
本学へ直接お申し込みください
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30
東京神学大学 総務課
Tel 0422-32-4185 Fax 0422-33-0667
E-mail soumu02@tuts.ac.jp

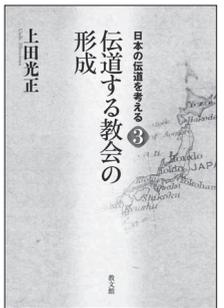
極めて挑戦的な表現である「非宗教的キリスト教」が第五章「機械仕掛けの神」「成人した世界」「神なきがごとくに」を鍵に「生を中心」におられるキリストと、それゆえに無力で「苦しみたもう神」を手掛かりにキリスト者の在り方を述べる。蛇足。この『はじめての』シリーズは「ユニークなイラスト」が売りの一つであろうが、イラスト化されたボンヘッファーは読者のイメージを固定化させないか。ましてや彼は伝統的な神理解に大きな修正を追っているのに、怖いオジサン風な顔は本書にふさわしいかどうか。

ともあれ、新しい視点のボンヘッファー入門書を歓迎し、訳者の労に感謝したい。

(えとう・なおすみ/ルーテル学院大学学長)
(四六判・二二六頁・本体一八〇〇円+税・教文館)

私たちは「いかに」伝道するのか？
上田光正著

日本の伝道を考える3 伝道する教会の形成



小泉 健

日本の伝道を考える際に、どのような筋道で考えることができるでしょうか。わたしたちが伝道に困難を感じ、教勢が停滞し、教会が力をなくしていることはたしかです。危機感を共有することが必要です。ただし、危機は生々しく語られるのに、それを打開する言葉が後に続かないのです。

神学の中に「宣教論」という分野があります。もともとは、キリスト教国から伝道地へと出かけていった宣教師たちが、外国伝道の経験を持ち帰り、反省することから生まれたものです。伝道地において、イエス・キリストの名を知らない人々に福音を伝えるとはどういうことかを、新しく考えさせられたのです。こうした宣教論においては、たとえば、神の宣教を土台にしつつ、「出会い」「対話」「共生」が論じられます。他の宗教との関係、福音と文化のかかわりが取り上げられ、「土着化」「文脈化」「文化的受肉」が考察されます。

日本はなお伝道地ですし、著者は四十年以上にわたる日本伝道の取り組みを土台として本シリーズを書いておられます。その意味では、いわゆる宣教論と同じところから出発していると

も言えます。しかし本シリーズは、右に述べたような宣教論に連なるものではありません。むしろ「日本における『宣教学』という学問分野を構築することを試みよう」と（第一巻、七頁）するものであり、「日本といういわゆる『伝道途上国』での伝道を組織神学的に基礎から考える」（同、七―八頁）ものなのです。ここに、本シリーズの性格が明確に言い表されています。土台にあるのは、教義学全体を「伝道の神学」として把握し直そうとする姿勢です。実際の論述にあたっては、教義学全体に触れることはできませんから、どこに力点を置くかに特色が現れることとなります。「何を」伝えるのかを語る第二巻では、伝道の根拠としての「神の恵みの選び」と、喜ばしい知らせの核心である「罪の赦しの福音」が語られたのでした。

最終巻となる本書は、いよいよ「いかに」伝道すべきかを扱います。その最初に「神の言葉」論が展開されるのは、読者の意表をつくものであり、本書のいちじるしい特色を示す部分だと言えるでしょう。伝道し、救いの言葉をお語りくださるのはキリストです。そしてキリストは神の言葉そのものであらま

す。この神の言葉を、今ここの言葉として語らせ、神の言葉への応答を引き起こし、教会をお建てになるのが聖霊です。ですから、キリストの現臨と救済行為が、何によって、どのように担われるのか、わたしたちがそのことにどのように仕えることができるのかを明らかにすることが重要になるわけです。

こうした神の言葉論を土台として、神の言葉に仕える牧師と信徒の務めが具体的に語られます。牧師が神の言葉に仕えるのは、なんとと言っても説教の奉仕です。ここでは、筆者の説教者としての経験に基づいて、かなり具体的な方法が語られます。

二つの「ずれ」の問題、「十五字の言葉」を書くことなど、説教者はさまざまな刺激を受け、自分自身の実践を振り返る手がかりを得ることになります。

信徒の務めが語られる際に中心の原理とされているのが「万人祭司」主義です。このことはすでに第一巻で、韓国の教会の強さを語る際にも述べられていました。一人一人の信徒が

御言葉に聞き、御言葉に従う者となり、教会を形成する主体となること。ここに教会の力、伝道の力があります。著者は、万人祭司の実質化こそが、具体的に展開されるべき伝道方策だと考えているように思われます。

すでに明らかのように、本書の伝道論は、教会が教会として建てられることこそが真の伝道であるというものです。これこそ日本の教会が追い求めてきたことであり、今なお課題としてあることです。古くて新しい日本伝道論が、ここに読みやすく堅実な形にまとめられて提示されています。

（こいずみ・けん＝東京神学大学准教授）
（A5判・二五二頁・本体一九〇〇円＋税・教文館）

**アンデルセンに聞く
聖書の言葉**

田島 靖則 著
Shunpei Tanaka

**アンデルセンに聞く
聖書の言葉**

田島 靖則 著
●B6判並製 ●定価：700円＋税

デンマークはルーテル教会（ルター派プロテスタント教会）を国の宗教とする北歐四国のうちの一つであり、アンデルセンの作品には、ルター派の信仰理解や倫理観が反映されているのではないかと考え、完訳の全七巻をそろえて読み進んだ。その時の副産物として生まれたのが、本書に収めた礼拝説教である。（「まえがき」より）

ISBN978-4-86376-043-1

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

多くの示唆を与える書
土井健司編

自死と遺族とキリスト教 「断罪」から「慰め」へ、「禁止」から「予防」へ



窪寺俊之

人身事故で電車が遅れることが日常的になっていて、駅のホームでアナウンスを聞くたびに自殺者の気持を思いやり、心を痛めることが多い。人のいのちは地球よりも重いとされる。残念なことに、その重さは大切な命を失って初めて気付くことが多い。特に、愛する人の悲惨な死は、遺された者の心の髄を死ぬまで刺し続ける。日本で毎年三万人近い人が自分から生命を絶っている事実は多くの人の心を痛めている。

自殺については、古くはE・デュルケームの『自殺論』、A・シヨウベンハウエルの『自殺について』、D・ヒュームの『自殺論』があり、日本では稲村博『自殺学』、最近では、大原健士郎の『日本の自殺——孤独と不安の解明』、高橋祥友『自殺の心理学』などがある。

さて、この新著『自死と遺族とキリスト教——「断罪」から「慰め」へ、「禁止」から「予防」へ』は、関西学院大学の自死・自殺に関する共同研究の成果である。土井健司教授を中心に遺族、精神科医、カウンセラー、葬儀社職員、牧師、神学者がそれぞれの関心と立場から自死について論じた成果である。

はない、キリスト教の誤解をも正す可能性をもっている。キリスト教で自死が罪とされた理由や、牧師の心の病と自死の問題を論じた論文は、私達を一旦立ち止まらせてキリスト教の本質を考えさせてくれる。自からの信じるキリスト教や信仰の内容を見直す作業である。それは自立した信仰へと成長させてくれるに違いない。

さて、この書物をどう読むことができるのか。この書物には、過去の学問を学びつつ、今、起きている問題を今の視点から問いつつ解決への模索が感じられる。そこには現代日本の社会や家庭、そして個人の価値観や人生観を見直す切っ掛けが語られている。

ここで扱われている話題、取り扱われた情報、方法はそれぞれの立場で異なっている。この相違こそ、一つの魅力である。私たちの固定概念、偏見、誤解を解いて、広い視野に導いてくれる。読んで分かるのだが、非常に熱いものを感じさせる章があり、同時に冷静に思索することを促す章がある。それが訴える力をもっているのも、それぞれの専門性が滲み出ているからである。

自死は精神的病いと深く関わり個人的問題であるが、生活を支える社会制度にも深く関わってきた。また、宗教とも関わりキリスト教は古くから自殺に関わってきた。いのちの電話や遺族の会などクリスチャンが始めたものが多い。

本書の冒頭、愛する父を自死で失い、その中からソーシャルワーカーとなり、更に研究者になった方の文章は心を打った。また自死念慮者への牧会カウンセラーの対応やグリーンケアの精神科医の文章は有益な示唆を与えてくれる。和歌山県白浜での自殺予防に取り組んでいる牧師の講演は、教会とは何かを考えさせ教会の力を見せてくれる。また自死者への葬儀の臨床現場の事情を読むと、日本社会の偏見や誤解をみる思いになる。

また、ドイツの教会での自死者の葬儀の式文についての論考は、日本の牧師にも有益である。日本の自殺を統計的に分析した論文は、最近若者の自死が増える傾向になることを指摘して、生き甲斐を与えられる社会の必要性を訴えている。

この書物は副題にあるようにキリスト教を軸にしている。それは自死に対してキリスト教の役割を教えている。それだけで

読者は自分の関心のある章から読んでいい。ただ、自分の問題意識を明確にしつつ、著者と対話しつつ読む事をお勧めしたい。著者の扱っている問題、分析の仕方、結論の導き方に注意しながら読むならば、著者との対話が始まり、新しい気付きがあり、自分のいのちの観が生まれ、積極的自死予防への考えが生まれるに違いない。

日本は今後、更に高齢化社会を迎え、自死や孤独死が増えることが予想される。また競争社会が激化することで若者や壮年の自死も増えるかもしれない。そんな事態にならないためにも、自分達の社会や家庭、人生の生き方を考える必要がある。特に、私達ひとり一人のいのちを救うために「ご自身のいのちを投げ出してくださった主イエス様の愛を思うならば、どんなにしても自死者を出さないと祈りたい気持ちになる。

是非、教会の勉強会や自殺予防を考える会等でのテキストにして意見交換しながら読まれることを願っている。

(くぼでら・としゆき＝聖学院大学大学院教授)
(四六判・二六五頁・本体三六〇円＋税・新教出版社)

神認識を映し出す鏡としての礼拝
 ジェームス・B・トーランス著
 有賀文彦、山田義明訳

三位一体の神と礼拝共同体



原田浩司

著者ジェームス・B・トーランスには必ず付いて回る形容詞がある。「トーマス・F・トーランスの弟」。兄の活躍の陰で彼の印象は薄いかもしれないが、弟ジェームズはアバディーン大学で組織神学部門の教授を務め、二人は二十世紀後半のスコットランド神学界に名を刻んだ兄弟だった。多くの書物を執筆した兄とは対照的に、彼の著作は本書だけである。彼の神学思想について、これまで日本語では論文「ウエストミンスター神学の長所と短所」(A・C・ヘロン編『ウエストミンスター信仰告白と今日の教会』すぐ書房、一九八九年)に収録)でしか一般には知る機会がなかった。またそれゆえに、彼はウエストミンスター神学の文脈に封じ込められがちで、神戸改革派神学校の袴田康裕教授による彼への批判は辛辣だ(「ジェームス・B・トーランスのウエストミンスター神学批判について」[二〇〇三年]を参照)。だが今回の出版でその封印は解かれ、「三位一体論」の重要性を説いた神学者として彼の認識を更新できたことを喜びたい。

本書は彼がナザレン神学大学で行った、礼拝に関する特別講義の記録で、原題は「礼拝、共同体、そして恵み深き三一なる

神 (Worship, Community & The Triune God of Grace)」であり、四つの主題(第一章「礼拝——ユニテリアンのか三位一体的か」、第二章「礼拝の仲保者であるキリストの唯一の祭司職」、第三章「洗礼と主の晩餐——交わりの道」、第四章「男女の性別と三位一体」)が論じられる。また、序章は短い文章ながらも全体を貫く彼の問題意識と神学的主張が簡潔に示され、重要な位置を占める。ここで彼は、「驚くべき交換」によってキリストの礼拝が私たち人間の礼拝になる時、礼拝はまさに「真実の礼拝」となる点に注意を喚起し、「礼拝の真実の主体はイエス・キリストであると認識する、新約聖書の礼拝理解を回復することの必要性を強調したい」(一五頁)と本書の方向性を提示する。

第一章で、彼は「ユニテリアンの見解」と「三位一体的見解」という二つの異なる礼拝観を対照的に紹介し、前者の礼拝観に立つ時、そこには「仲介者」や「キリストの祭司職」に関する教理はなく、「神—私」の関係で完結する。そこでの礼拝は「私」と「私の行為」となり、私が礼拝の行為主体となる。他方、後者の礼拝観では「礼拝とは聖霊を通して受肉した御子と御父

との交わりにあずかる賜物」(二八頁)となり、礼拝において人間は三位一体の生ける神の聖なるいのちの交わり(ペリコロ—シス)の内に引き上げられる。彼は、前者が今日では支配的な礼拝観であることに警鐘を鳴らし、三位一体的神認識を礼拝に回復し、それを反映する意義を説く。第二章では、人間を執り成すためのキリストの代理的生に着目し、キリストの祭司職の理解を深める考察が論じられる。第三章では、三位一体なる神の内在的な「交わり」、及び三位一体なる神との「交わり」という観点から礼拝を再確認する。特に、洗礼と聖餐の聖礼典が、キリストをはじめ、三位一体の各位格の総合的な「交わり」への参与である点を再認識させる。第四章は、表題からも推察されるフェミニズム神学による批判について、彼は教義学者として、三位一体なる神をめぐる神認識の文脈で検証する。特に極端なフェミニズムの主張が三位一体論の明確な破壊につながり、現代版ニカイア論争の様相を呈する深刻な問題点を孕

んでいることが指摘される。

訳者あとがきで「本書は……わたしたちのささげる礼拝が、真に神に受け入れられ、真に神の命そのものにあずかるような礼拝となるために、どのような神理解に基づいて形作られるべきかを問うといった、教義学的なテーマを扱っている」(一四二頁)と記される。本書を通して、改めて礼拝の主体、礼拝の意義、その恵みを再確認することは非常に有意義であり、評者も本書から多くを学ばせていただいた。

なお、特に本書の序盤で、幾つかの欠訳や誤訳が気になった。「はじめに」の八行目で「聖霊を通して」が訳されていない等、再版では修正されることを期待したい。そう指摘する評者自身も翻訳に携わる身、決して他人事ではない。

(A5判・一五〇頁・本体二四〇〇円+税・一麦出版社)
 (はらだこうじ || 東北学院大学准教授)



三位一体の神と礼拝共同体

ジェームス・B・トーランス
 James B. Torrance

有賀文彦・山田義明*訳



「信仰告白」において三位一体の神を表明しつつ、三位一体なる神を、礼拝とわたしたちの思い・生活から排除してはいないだろうか。

A5判
 定価【本体 2,400 + 税】円
 ISBN978-4-86325-075-8



株式会社 一麦出版社
 札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
 TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
 携帯 mobile.ichibaku.co.jp

宮沢賢治の思想に聖書がどのような関わりをもって
いるのか

桐山義次、富永國比古共著

『銀河鉄道の夜』と聖書 ほんたうのさいはひ、十字架への旅



大島 力

先日、東京郊外の比較的大きな一般書店に立ち寄ることがあった。その書店のキリスト教書のコーナーは、かなり良い選書者がいるのであろう、充実したキリスト教書がいつも並んでいる。そこに本書が平積みされていたのを見て、非常にうれしく思った。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』は、多くの日本人によって今も読み継がれている。あるいはほとんどの人がその書名を知っている賢治の代表作である。そして、ごく若い世代においてはその影響を受けた「銀河鉄道999」というアニメーションによって漠然としたものであるが親しみを感じている作品である。書店員がそれを選択してキリスト教コーナーに置いた理由は分かるような気がする。

本書はかなり大胆なテーゼを掲げて、それを様々な面から立証しようとしている意欲作である。それは『銀河鉄道の夜』は、キリスト教文学である」というものである。そして、その根拠としては、宮沢賢治が花巻において、あの代表的な詩「アメモマケズ」のモデルであったとされる斎藤宗次郎を始め、

内村鑑三の影響を受けたキリスト者たちと密接な交流をしていたということである。すなわち、賢治はかなり深く聖書を読み、その内容に共感していたと考えられる。特にそれは、「イザヤ書五三章の苦難の僕」が、『銀河鉄道の夜』の通奏低音となっている、という見解によって示されている(桐山義次氏)。

また、それに留まらず、『銀河鉄道の夜』にはヨブ記やエレミヤ書の影響がはつきりと認められるという見解によっても具体的に示されている(富永國比古氏)。これだけでも十分に刺激的な立論であり、賢治の思想に聖書がどのような関わりをもっているのか、探ってみたいという関心を呼び起こすのである。私が本書で特に注目をしたことの一つは、「幸福」と「さいわい」の違いである。『銀河鉄道の夜』の中で、主人公であるジョバンニが何度か「けれどもほんたうのさいわいは一体何だろう」と反芻していることは印象的である。これは明らかに世間一般の「幸福」追求とは違っている。むしろ、イエスがマタイ福音書の「山上の説教」で告げている「心の貧しい人々は、幸いである」「悲しむ人々は幸いである」という考え方に親近

性をもっている。また、それはジョバンニとかおる子の「ほんたうの神さま論争」にも通じている。その中に出てくる「ひとりのほんたうのほんたうの神さまです」というジョバンニの言葉に関しては議論があるが、これは単に「神教の神」というよりは、賢治にとって神の存在はすでに前提になっていて、その上で「神観」が問題となっている。法華経徒であった賢治は不思議とシンクレティズムに陥ることなく、聖書の神について言及することに成功していると言えよう。

もう一つ私に関心をもったのは、後半の部分でジョバンニが「僕はもうあのさそりのやうにほんとうにみんなの幸いのためならば僕の中からなんかくペン灼いてもかまわない」と言っている場面である。これは、単なる自己犠牲ではなく、自分に代わって苦難を引き受けてくれる存在を示された者の応答の姿であると理解されるのである。

かつて作家の大江健三郎は「無垢な存在が苦しみを受けてい

る」ということが自分の文学の原点にあると言っていたが、宮沢賢治も最愛の妹トシの病死に同様の痛みを感じていたのではないか。いずれにせよ、自己の存在が誰かの苦しみと痛みと死によって支えられているという現実、普遍的な深い真理であると思う。

本書のコラムでは、神谷美恵子が『生きがいについて』の中で、宮沢賢治と妹トシとの死別について共感的に述べていることも紹介されている。「代理受苦」について深く考えさせてくれる書物である。「なぜ私たちがなくあなたが? あなたは代わって下さったのだ」(神谷美恵子)。

(四六判・三〇九頁・本体二三〇〇円+税・キリスト新聞社)
おしま・ちから青山学院大学宗教主任・日本基督教団石神井教会担任教師

宗教を開く

宗教多元主義を越えて

著●中村博武/古荘匠義/本多真/岡崎秀磨

(四六判・一七〇頁・本体価格2,600円)

キリスト教と仏教の信仰の在り方、宗教の現代の意義などをテーマに双方の研究者が論述。仏教、キリスト教という教義に基づく宗教概念をいったん解体するとうなるかという議論から興味深い論考を展開する。

心を神に

礼拝への思索と実践

著●加藤博道

(四六判・本体価格1,600円)

「具体的な礼拝の経験が、信仰と教会を形成する」。そのような視点から著者は教会の礼拝の持つ歴史的な背景、豊かさを示すとともに、それらが今を生きている教会の中で、どのように生き生きとダイナミックな姿を表すことができるかを叙述し、未来への希望を語る。研修会等に最適な本。

宇宙論と進化論と

キリスト教

科学と聖書が協奏する新たな啓示

著●ジョン・ホート 訳●田中公一

(A五判・一七〇頁・本体価格2,600円)

お役所仕事に万歳四唱
プレバンの青春
著●フイン・セーボー 訳●野沢みどり

〒170-6045
東京都豊島区東池袋3-1-1
サンシャイン60 45階
☎03(5979)2252 FAX 03(5979)2253

創設一五〇年の記念すべき年に
八木哲郎著

19世紀の聖人 ハドソン・テラーとその時代



菅家庄 一郎

本書は中国奥地宣教団を創設した英国人宣教師・ハドソン・テラーと彼が生きた時代について記された本である。テラーの霊的な苦悩や伝道の働きについて書かれた書物は日本語でもいくつか紹介されているが、本書ほど詳細にテラーが活躍した当時の時代的背景に触れたものは日本語では初めて出版された。著者の八木哲郎氏は中国語と英語に堪能な方であり、テラーに関する文献を徹底的に調べた素晴らしいハドソン・テラー研究の書である。

一九世紀は大英帝国が世界を支配した時代であり、テラーが中国で働いた時代はアヘン戦争直後の世界、大英帝国の商人たちがインドから中国にアヘンを輸入することを強要し、多くの中国人を奴隷として売買していた時代である。その結果、多くの中国人がアヘン中毒になり、奴隷船で海外へ輸送される間に命を落とした。そのような国からきた宣教師に神の愛を説かれても、拒否した中国人も多くいたことは想像に難くない。また、当時の医学的レベルもわかる。一八六一年だけで、ロンドンにおいて赤痢とコレラで数千人が死亡し、致死率は四〇〜六

〇%に及んだという。コレラが世界中に広がったのは、イギリスの軍隊がインドからあちこちへ伝染させたからだと言われている。非難されていたという。

しばしば、宣教師は列強の植民地拡大戦略に利用されたにすぎないという批判がなされることがあるが、この書を読めば、そのような宣教師たちとはまったく異なる生き方をした宣教師も存在したことがよくわかる。時代の流れに逆らって、ただキリストのしもべとして福音をつたえたテラーと中国奥地宣教団の宣教師達の生きざまに読者は感動させられるであろう。

この時代にテラーが行ったことは革新的であった。例えば、テラーは外国人たちの権利が守られている租界や沿岸部ではなく、条約違反である奥地に宣教師を派遣した。これはたいへん危険な行為であった。また、テラーは独身女性を派遣した。このことは多くのイギリスの教会から無責任な行為と非難された。また、イギリス人牧師のユニフォームであった黒色の詰襟の牧師服を捨て、中国人が常用する服と靴をまとい福音を伝えるようにと宣教師を指導した。このことも「文明国の人間の恥

であり、イギリス人の品性をないがしろにするものだ」と上海に住む英国人たちからバカにされた。多くの宣教師団は、高い教育を受けた人を宣教師として派遣したが、テラーが派遣した人々の多くは労働者階級の人々であった。また、献金のアピールをしなかった。それは、献金が必要でないからではなく、献金も含め、すべてのことをただ祈りによって神に訴え、神が人々を動かしてくださることを信じたからである。

テラーがこれほどまでに中国へ宣教師を送り、中国人に受け入れるための努力をした動機は何だったのか。それは、滅びゆく三億の中国人に何とかしてキリストの福音を伝えたいという命をかけた燃えるような情熱であった。彼は中国人がキリストに立ち返るためならばどんなことでもした。そして、それまでの「宣教師団の常識」をことごとく覆っていったのである。

二〇一五年は、このテラーが中国奥地宣教団を創設してから一五〇年になる記念すべき年である。テラーの働きと精神

はOMFインターナショナルと名前を変え、彼が確立した規則の多くは、今に至るまで受け継がれ宣教の働きが継続している。現在、OMFインターナショナルは東アジアの国々に一四〇〇人の宣教を派遣している。OMF日本委員会は一九六六年に発足し、一七名の宣教師・専門職ワーカーを、中国、タイ、シンガポール、ミャンマーなどの国々に派遣している。

(A5判・三七八頁・本体二三〇〇円+税・キリスト新聞社)
(すがや・しょういちろう) OMF日本委員会(総主事)

「聴聞学」の登場!

日本基督教団
宣教師聴聞委員会

説教聴聞録

ローマの信徒への手紙

絶賛
発売中!

主日説教との「二期一会」の出会い、自らの原典釈義を通して説教者の釈義を追究する聴聞録! 牧師に「説教」があるように、まさに信徒による「聴聞学」の誕生である。1997年から毎週追想してきた説教の中から「ロマ書」に集中してまとめられたもの。

●三ハル新書Obel.三〇四頁・一、〇〇〇円+税

好評既刊の本

山口勝政著 ヨベル新書 027

キリスト教とはなにか? ヨハネ書簡に徹して聴く

榎田節夫師・評 講解説教の具体的な見本と励ましを望む牧師・神学生の方々は御力と御霊の導きを求めてさらに真剣に説教の取り組みへの挑戦を受けることでしょう。

●新書判・248頁・1,000円+税

渡辺善太著作選⑩ ヨベル新書 024

聖書的説教とは? 加藤常昭師・解説

桂町キリスト教会矢木良雄師・評 聖書を正典的に説教するとはどういうことか、それがこの本の主題。もう一点は説教の聖書解釈は正典的神学的方法によって行うこと。熟読すべき名著!

●新書判・320頁・1,800円+税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp

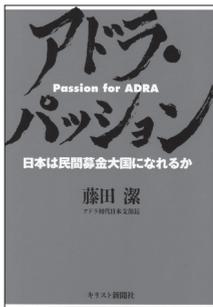
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

*自費出版の専門出版社*資料・星

日本のNGOの草分け的存在

藤田 潔著

アドラ・パッション 日本は民間募金大国になれるか



花田憲彦

著者はアドラ日本支部の初代支部長。一九八五年の設立当時、日本ではNGO（非政府組織）やNPO（非営利団体）という言葉すら認知されていなかった時代である。唯一の事務職員である妻と、古いコンクリート建ての建物を事務所としてリフォームし、パンフレットを作り、募金活動を開始した。何の実績も認知度もないアドラの募金活動は失望の連続であり、「空を打つような」働きの毎日が続いた。日本のNGOの草分け的存在の一つであるアドラはこうして産声をあげた。

ドイツ・ライプツィヒの「祈りの泉」に投げ込まれたコインが贈呈されたり、「国際ボランティア貯金」の助成金適用第一号となるなど、アドラのファン・レイジングの幅が広がっていくが、著者のパッション（情熱）が「外国コインプロジェクト」「一週一食募金箱」などのアイディアを次々に生み出していく。通称「アドラ」(ADRA: Adventist Development and Relief Agency) は、支持母体であるセブンスデー・アドベンチスト(SDA) 教団の全世界二六カ国にまたがる宣教ネットワークを生かし、世界約一二〇カ国に支部を持つ。「人種・宗教・

政治の区別なく、自然災害や紛争の被災者、医療を必要としている人々、教育を受けられない女性や子どもたちなどに、自立を助ける支援や緊急支援を届けている」(アドラHPより)。
同時に国際的な人材を養成し続けているという点で、日本におけるアドラの活動は特筆に値する。毎年、海外青年ボランティアチームを派遣し、多くの青年たちの世界観や人生観が劇的に広げられていく様子が、本書に紹介されている参加者たちの数々の感想文から読み取れる。

著者はまた、長年のファン・レイジングの経験を通して、「次世代の募金活動考察」「ヘルシーな人間関係の構築」の章でファン・レイザーとしてのあり方について触れている。「ファン・レイジングに関する多くの技巧やテクニックを使って一生懸命に働くことは大切ですが、それは全人的なコミットメント(没我的)で裏打ちされなければ、人々の心を動かすことは難しいということです。つまり、ファン・レイザーの心の姿勢が問われているのです。ファン・レイザーが学ぶべき最大の教訓は頭を低くすることではないかと思えます。こ

うして得たドナーの篤い友情と支持は、ほとんど彼の生涯にわたって継続されることになるでしょう。そうであればファン・レイジングほど冥利に尽きるものはありません」(二二二、二二四頁)。

著者の経験に裏打ちされたこの姿勢は、まさに伝道の基本そのものであり、日本宣教に献身している教会のあるべき姿でもある。キリスト者は、与えられたミッション(使命)により、キリストのコンパッション(憐れみ)と一つとなり、そこからパッション(情熱)が生み出されていくのである。

副題にもなっている「日本は民間募金大国になれるか」という問いかけは、今後の日本の進むべき道についての的確で時宜を得た考察でまとめられている。「受けるよりは与える方が幸いである」とのキリストの言葉に基づいた人生観を自らの生き方を通して次世代に伝え、聖書に示されている収入の十分の一を聖別するという経済原則の実践を通して、真に幸福で豊かな

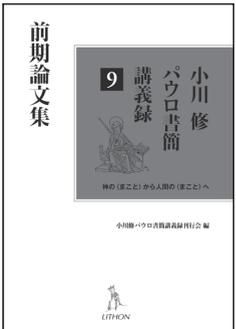
人生の祝福を分かち合っていくフィランソロピー(利他主義Philanthropy)教育こそが次世代の教育であり、日本が世界に貢献していく道であることを著者は訴える。

最後に、本書の帯に「国際NGO無名兵卒のファン・レイジング奮闘記」とあるが、ペテロの妻のごとく、無名兵卒を支えた最大の貢献者である著者のご令室こそ、本書を生み出した影の無名兵卒であろう。最大限の感謝と賛辞を贈りたい。

(A5判・二七六頁・本体一九〇〇円+税・キリスト新聞社)
(はまだ・のりこ=セブンスデー・アドベンチスト教団伝道局長)



新刊



小川修パウロ 書簡講義録9 前期論文集

小川修パウロ書簡講義録刊行会編

●A5判上製三五〇頁●定価三二四〇円

本シリーズは、小川修先生が二〇〇七年四月から二〇一〇年月に亘り、同志社大学神学部大学院で行った「パウロ書簡」の講義録である。本巻はその基となる著者の論攷(一九六八年から一九八八年までの二二年間)の二六編を「前期論文集」として収録した。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

本屋さんを選んだ お勧めの本

善隣館書店 佐々木章

『ハリエットの道』

キャロルボストン・ウエザフォード文

カデイル・ネルソン絵

さくまゆみ訳



1,800円+税
日本キリスト教団出版局

人が人を隷従させる、そんなあつてはならない事が法律として認められていたアメリカの黒人奴隷の試練の時代、彼らは「ご主人」の「所有物」だったのです。

奴隷の子として生まれた人は一生奴隷として朝早くから夜遅くまでこき使われました。時にはムチ打たれ、危険な仕事をさせられ「ご主人」から「ご主人」に売買されることもありました。そのせいで家族はバラバラにされました。

この絵本はそんな中、神に祈り、その声を聞きつつ、つかまれば死を覚悟しなければならぬ厳しい追手をのがれ数百キロという自由への道を切り開き何百人もの同朋を助け出した「女モーセ」と呼ばれたハリエット・タブマンの神への信頼と勇気の物語です。

彼女は、一九一三年に天に召されましたが今でもこの世界に隷従と貧困は絶えないのだよ、とこの絵本を通して語

りかけています。

善隣館書店

〒020-0025 盛岡市大沢川原3-2-37

TEL: 019-654-1216 (FAX同)

E-Mail: zeninkan_syoten@yahoo.co.jp

URL: http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/

堺キリスト教書店 植田雄一

『ジーザス・コーリング バイブルストーリーズ』

サラ・ヤング著

尾野庸子訳

キャロル・ファリス絵



2,500円+税
いのちのことば社

本書は、サラ・ヤング著『わたしは決してあなたをひとりにしない』いのちのことば社、2012年、の子ども向け版聖書物語で、日々の読み聞かせを意図して製作されています。

中に描かれている絵はどこを開いても可愛く、見ている子どもたちの興味を引きます。お話も、旧新約合わせて百話近く収録されているので、子どもたちを飽きさせること

たちのまっすぐで多種多様な質問に、聖書の言葉を用いて応えてくれます。

装丁、レイアウトは、若い人を意識して作られていて、ページを開いてみても堅苦しさはなく、見開き一問一答で進んで行くので読みやすさは抜群です。しかし、実はそんな簡単に読み切れる書物ではないとも感じています。装丁から想像される軽妙な感覚では読み切れないものが、ここにはあります。そして、その短いやり取りの中に、読者も考える事が出来る余地がたくさん残っているのです。著者の言葉をお借りすれば、「解答」ではなく「応答」であるが故に、立ち止まって考えたいくなるのではないのでしょうか。読んで頂ければ、タイトル通り「なんか気分が晴れる」気がします。そんな一冊です。気分がモヤモヤしている人に、そっと渡してあげてください！

それは、お話の最後に、その話に関連する聖句と短いメッセージが付いているところです。このメッセージは、子どもたちだけへのメッセージとも取れるかもしれませんが、しかし私は大人たちにも向けられたメッセージだと感じています。私自身も本書を用いて3歳の娘に読み聞かせをしています。自分ではわかっていないつもりだったお話の意図するところを、このメッセージによって改めて気づかされることもあります。特に小さなお子さまをお持ちの方にお勧めします。「神さまのおはなし読んで！」と、子どもたちにも、この本の読み聞かせをせがまれることでしょうか。

『なんか気分が 晴れる言葉を ください』

塩谷直也著



1,200円+税
保育社

青山学院大学宗教学主任の塩谷直也先生が、「キリスト教概論Q&A」の講義や、その他講演の後に提出された学生

堺キリスト教書店

〒591-8044 大阪府堺市北区中長尾町2-1-18

TEL: 072-257-0909

FAX: 072-253-6132

E-Mail: sakai-jbs@bible.or.jp

■新教出版社

暗い森を抜けて 神曲ものがたり(つのぶえ文庫)

ダンテ作／住谷眞編

世界文学中の古典を「神曲愛好家」を自称する牧師が子ども向けに分かりやすくリライト。数々の有名な場面を描いた高秀泉のイラストも鮮やか。大人が読んでも楽しい。

小B6判・190頁・予価1300円

ポスト・フクシマの神学とフォーサイスの贖罪論
大森講座29

川上直哉著

東北ヘルプの事務局長として活躍する著者が、被災者の視点から救済の問題を考える。フォーサイス論としても独自の解釈を打ち出した神学的労作。

四六判・300頁・予価1300円

信じない人のためのイエス入門 (つのぶえ文庫)

ジョン・シエルビー・スポング著／富田正樹訳

教会の教義から自由になつて聖書を読み直し、現代人にとつてなお大切な意味をもつイエス像を提示する。著者は45年以上にわたりアメリカ聖公会で司祭として仕えてきた司教。

A5判・380頁・予価3600円

■日本キリスト教団出版局

白い鹿

ヨゼフ・ドミヤン 版画 押田成人 詩

ハンガリー出身版画家の作品と、カトリック司祭の墨書詩による木版画集。2人の作者が「白い鹿」を通して、私たちの魂の旅路を立ち現す。受難を通してこの世を変容させたイエスの生き様を思わせる「白い鹿」の世界に触れることで、私たちも変えられてゆく。

A4判・74頁・本体5000円

INFORMATION

近刊情報

あなたらしく生きる

山内英子

たとえ病気になるっても、患者らしく生きるのではなく、あなたらしく生きてほしい。自分らしさに迷う人にも神さまは賜物を与えてくださっている。外科医・妻・母・信仰者として、生と死に寄り添ってきた著者による、生き方エッセイ。日野原重明氏との対談を収録。

B6判・104頁・本体1000円

■教文館

日々の祈り

——手引きと例文

鈴木崇巨著

毎日の祈り31篇、折々の祈り12篇を収録。「感謝と懺悔のみを中心とした祈り」ではなく、神を賛美し、聖書的な道筋に立って祈るためのガイドとして最適。

四六判・196頁・本体1500円

霊性神学入門

小高 毅著

カトリックの修徳・修行論はどのように形成されてきたかを検討し、第二ヴァティカン公会議と現代思潮の影響とその後の霊的生活における変化と進展を考察する。

四六判・266頁・本体2200円

キリスト教古典叢書

アシジの聖フランシスコ伝記資料集

フランシスコ会日本管区訳・監修

中世最大の聖人の最初期の伝記集成。チェラノのトマス、聖ボナヴェントウラによる公認の伝記や、文学作品として名高い「小さき花」など、フランシスコ研究の原点である重要な源泉資料を収録。

A5判・820頁・本体7800円

神が美しくなられるために

——神学的美学としての実践神学

R・ポレン著／加藤常昭訳

現在でも読み継がれている『説教』で知られる著者が、実践神学における聖霊論的地平を切り開いた書として知られる名著。実践神学の基礎論。

A5判・400頁・本体4400円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲32 千草カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kristokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/inev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2015年11月号

特集 戦後70年の教会と神学5

——沖繩とヤマト

寄稿者 村椿嘉信、大久保正禎、久保礼子、

秋山眞兄、宮城幹夫

トレルチが読んだ内村鑑三

深井智朗

好評連載

レヴィナスの時間論 (内田樹)、南島キ

リスト教史入門 (色哲)、Christian Teon (八

木美穂子)、ことばの履歴書 (佐藤優)、詩篇の

思想と信仰 (月本昭男)、他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

自死と遺族とキリスト教

「断罪」から「慰め」へ、「禁止」から「予防」へ

土井健司編

自死予防、自死者の葬儀、遺族のケア……諸課題の最前線に立つ実践家、研究者たちによる共同研究の成果。

四六判・265頁・本体2600円



〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

岩手県の陸前高田市に子ども図書館「ちいさいおうち」(NPO法人うれし野)子ども図書室分館がある。震災後、地域の子どもたちに安全な場所を提供し、平穏な日常感覚を取り戻し、くつろいだ環境の中で読書を楽しんで欲しいとの願いで二〇一一年一月に開館した。

この図書館を知るきっかけは季刊「子どもとしゃかん」(東京子ども図書館発行)。東京子ども図書館は「子どもと本のしあわせな出会い」を願って活動する私立図書館である。「ちいさいおうち」専属司書が当該の活動報告「3・11からの出発」で図書館の様子を綴っている。保護者を対象とした絵本講座やワークシヨップなどの催しを行っているとのこと、子どもたちに寄り添い、本の楽園「づくり」に精を出したいと語る。今なお復興途上である被災地において、癒えることのない悲しみと向き合っている子どもたちに寄り添い、励まし合っている姿勢には勇気づけられた。

戦後七〇年の節目を迎え、戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切

さを再認識する機会が与えられている。何気ない日常が一瞬にして奪われ、かけがえのない存在を失う悲しみは戦争も震災も同じ。ただ、戦争とはどういうものかを子どもにも知ってもらうには、戦争責任を抜きにしては語れない。常に問い返し、語り継ぐことの大切さと難しさを思い知らされる。

被災地での復興で直面している福島県の問題、戦後の安全保障再考を迫られている沖縄の基地問題。大人だけの問題ではないし、子どもたちの暮らしに直結するとても身近な問題だ。私たちにとっての国策の行方を問い、信仰と希望、愛をもって、復興の道筋を担っていききたい。そして、多くの犠牲の上で私たちが今このとき、それぞれの立場に立たされていることを忘れてはいけないと思う。

後世にきちんと伝え継ぐためにも、本との大切な「出会い」をこれからも応援していきたい。本の楽園「が実現されるために」。

(友川)

翼をもつ言葉

説教をめぐるバルトとの対話 ウイリアム・ウイリモン著 / 宇野元訳

実践神学者ウイリモンが、バルトの説教および説教論と正面から取り組み、時にはバルトを批判しながら、現代における説教者のありかたを徹底的に考察した大著。深い洞察と励ましを与えられる書。

好評発売中

◆A5判・本体5500円



ポスト・ラクシマの神学とフォーサイスの贖罪論

川上直哉著 「大森講座29」

「犠牲」観念を含む贖罪論は原発事故に苦しむ福島で何を意味するかと問いつつ、フォーサイスの救済論、社会倫理等対話する。

10月下旬

◆四六判・本体1300円

逆説から歴史へ

八谷俊久著 初期『ローマ書』の逆説的キリスト論から後期『和解論』の新たなキリスト論構想に至る、主題の連続性と方法論の非連続性を、キルケゴール解釈／誤解に着目しつつ明らかにした労作。

バルト神学における キリスト論的思惟の変貌

10月下旬

◆A5判・本体3600円

信じない人のためのイエス入門

宗教を越えて J・S・スポング著 / 富田正樹訳



著名な元聖公会主教が、教会の内外にいるすべての人に贈るイエス入門。これまでの聖書の読み方はどこが間違っていたのか？聖書学の知見に基づいた新たな読み直しから浮かび上がるイエスとは、そして神とは誰か？

10月下旬

◆A5判・本体3700円

読売新聞書評欄にて前田秀樹氏絶賛

実践する神秘主義

イヴリン・アンダーヒル著 / 金子麻里訳



20世紀前半、神秘思想に関する多くの著作を著し、英国国教会で黙想会の指導者としても活躍したアンダーヒル。本書は、一般の人々にも届く言葉でキリスト教信仰の霊性を再解釈・再評価した名著であり、今なお広く読み継がれている。

◆四六判・本体2100円

NHK連続テレビ小説「あさが来た」ヒロインのモデルの著書

人を恐れず天を仰いで

広岡浅子著

復刊『二週二信』



著者は企業経営に辣腕をふるい女性実業家の先駆けとなった。女性の自立と教育にも関心を寄せ、日本女子大創設に尽力。還暦を過ぎて大阪教会で受洗。本書は自らの解散信仰観を瑞々しい筆致で綴った著書。解説は影山礼子氏。

◆B6変・本体1700円

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一五年十一月二日発行(毎月一回一日発行)

発行所 〒100-0044 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三二二六〇一五六七〇 振替〇一七〇一五一一六六七九
発行人 本村利春 編集人 寺田彰 印刷所 懐平河工業社
〒100-0044 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp (価格8%税込)

30年のときを経ていまよみがえる
木版画家とカトリック司祭の神秘的合作

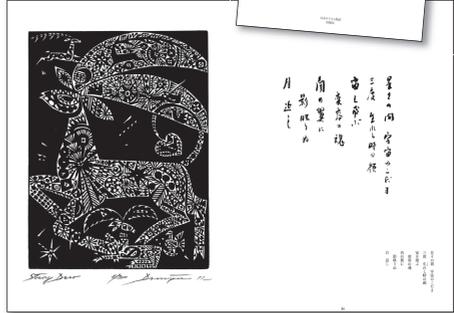
白い鹿

木版画集

版画 ヨゼフ・ドミヤン (1907-1992)
アメリカで活躍したハンガリー出身の木版画家
詩 押田成人 (1922-2003) カトリック・ドミニコ
修道会司祭

ハンガリー出身版画家の作品と、
カトリック司祭の墨書詩による木
版画集。2人の作者が「白い鹿」を通
して、私たちの魂の旅路を立ち現す。

◆A4判 上製・74頁・5,400円



キリスト教書店員がいちばん読んでほしい本

キリスト教 本屋大賞2015 大賞受賞作

エッセイの木 (2014年9月刊行)
クリスマスまでの24のお話



ジェラルディン・マコックラン 著
沢 知恵 訳 池谷陽子 絵

児童文学の名手が紡ぐ、「ア
ダムとエバ」から「イエス」
にいたる聖書のお話。

◆A5判 上製・158頁・1,944円

受賞コメント おじいさんの彫り進む1本の木。
てっぺんにたどりついた時は喜びでいっぱいになり
ました。ありがとうございました。 [絵] 池谷陽子

日野原重明氏との対談を加え
「こころの友」連載を単行本化

あなたらしく 生きる



山内英子

聖路加国際病院プレストセンター長、乳腺外科部長

外科医・妻・母・信仰者として、
生と死に寄り添ってきた著者
が紡ぐ生き方エッセイ。

◆B6判並製・104頁・1080円

